

# 青於藍 あい ~藍よりも青く~

2016年8月31日発行 第5号  
発行：福島県立相馬高等学校第1学年

## 自分探しの旅

高校生になって初めての夏休みは皆にとってどのようなものだっただろうか？

「勉強、部活ともにしっかりと取り組むことができた。」「部活だけ頑張った。」「ただ、ひたすらリオオリンピックを見ていた。」等々、善し悪しは別にして、何かに夢中になって取り組んだものは少なからずあると思う。

私の高校1年生の夏休みを振り返ってみると（もう30年以上も前の話だが）、ただひたすら陸上に取り組んでいた。当時の私は引き締まった体型で（現在の体重-30kg）、短距離選手だった。100mを中心に取り組んでいたが、私のタイムでは県大会に何とか出場できる程度で、県大会では予選落ちをするレベルだった。やるからには全国大会に出場したいという強い思いがあったので、この世界で自分が生き残るためには何をすべきかを真剣に考えた。その結果、私が出した結論は「400mハードル」という種目に専念することだった。400mハードルは400mを走る間にハードルを10台飛ぶかなり過酷な種目である。

高校2年生の秋までは走力をつける練習を継続的にやり、新人戦で初めて県大会の予選を通過することができたが、準決勝では全く歯が立たず、最下位に終わった。更にレベルアップするために2年生の冬は長距離陣に混じってハードな練習メニューをこなした。現在、田村高校陸上部監督をしている畑中良介先生は陸上部の同級生で、練習でくじけそうになると何度も励ましてくれた。そして過酷な練習をやりきったという自信をむねに最後のインターハイに臨んだ。

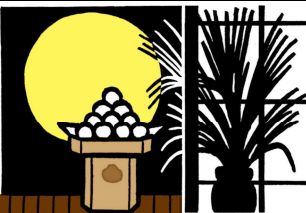
迎えた3年生最後のインターハイ県大会、2年生までは私の前を走っていた選手が苦しそうな表情で後方を走る光景に私自身が驚いた。決勝では5位に終わり、表彰台に上がることはできなかったが、レースは終始、先頭集団に食らいつくることができた。東北大会では、準決勝4位で決勝には進出できず、目標としていた全国大会出場は果たせなかったが、自分なりに達成感を味わうことができた。

振り返ると、どんなことに取り組むにせよ、そこで自分が何をしたいかを真剣に考えることが大切であると、陸上を通じて学ぶことができた。現在、私は理科の教員をしているが、大学を卒業してから11年間は民間で働いていた。しかし、科学技術の発展とこれからの地球の在り方について理科の授業を通して生徒に伝えたいという思いから、教員の世界に飛び込んだ。教員になって14年目になるが、まだまだ未熟でやってみたいことの半分も実現できていない有様で、教員として何ができるのかという「自分探しの旅」の真っ只中にある状況である。

今、文理選択の最終決定で真剣に悩んでいる人が多いのではないだろうか。しかし、ここで悩んだことは、将来、必ず役に立つことを知ってほしい。悩んだ分だけ人は必ず成長できるはず、皆も「自分探しの旅」を通して納得のいく文理選択、そして進路選択をしてほしい。共に大いに悩み、そして成長しよう。  
(5組担任 西山博文)

## 9月の行事予定

- |                 |                      |                        |
|-----------------|----------------------|------------------------|
| 9月 1日(木)        | 講演会(67校時)            | 大谷徹英氏(薬師寺執事)           |
| 5日(月)           | 7校時授業(7校時は「総学」となります) |                        |
| 8日(木)           | 6校時授業                | ※校内文化祭の準備のため           |
| 9日(金)           | 校内文化祭(文化部発表+生徒会企画)   |                        |
| 14日(水)          | 山形大学見学会(山形市)         |                        |
| 15日(金)          | 保健講話(67校時)           | 草野みゆき先生(中村一中 栄養教諭)     |
|                 |                      | ※6校時の授業は9月13日(火)7校時に移動 |
| 21日(水)          | 2学期中間考査日割発表          |                        |
| 29日(木)~10月4日(火) | 2学期中間考査              |                        |



## 9月1日の講演会について 演題「面白く生きよう」

今回講演いただくのは、奈良薬師寺の僧侶大谷徹英(おおたにてつじょう)氏です。まず氏の略歴を紹介します。

1963年東京都にある浄土宗の寺の二男としてお生まれになりました。高校在学中に故・高田好胤薬師寺住職に師事し、薬師寺の僧侶になりました。龍谷大学文学部仏教学科卒業後、同大学院修士課程を修了し、1999年春からは全国各地で「心を耕そう」をスローガンに法話行脚に取り組んでおられます。2003年に薬師寺執事に就任した後も、毎月の薬師寺での法話のほか、全国各地に赴き、法話や講演活動を行っていらっしゃいます。著書も多く、日めくりカレンダーなどの執筆もあるようです。

氏からは、「たった一回の誰も代わってくれない人生を、どう生きたいのかを一緒に考えたい」というメッセージをいただいています。薬師寺といえば修学旅行コースのの定番で、なおかつ薬師寺のお坊さんは話が面白いことで有名です。きっと楽しい講演会となることでしょう。



## 9月14日の山形大学見学会について

皆さんは、山形県というとどんなイメージを抱きますか？ サクランボ、最上川、米沢牛…あとは、東北の裏側といったところでしょうか。福島県より田舎というイメージを持つ人も多いと思います。私(升田)にとっては、いい山いい蕎麦いい温泉があり、スキーで何度も訪れている身近な県です。せっかくの機会なので、山形県と山形大学について少し知識を蓄えましょう。

福島県は浜、中、会津の三つの地方に分けて語られますが、山形県は、山形市を中心とした村山地域、米沢市を中心とした置賜地域、新庄市を中心とした最上地域、酒田・鶴岡市を中心とした庄内地域の4地域に分けられます。人口は111万余で、福島県よりも少なく、面積も少し狭いようです。福島県と同じ「くだもの王国」で、サクランボ・ブドウ・ラフランス・スイカが有名です。米は「はえぬき」「つや姫」が主力品種で、酒造メーカーも多く、また菓子メーカー「でん六」の本社は山形市にあります。観光地は、石段で有名な山寺の他、城下町に残る史跡、豊富に湧く温泉、日本海側の海水浴場等でしょうか。県庁所在地の山形市の人口は25万余です。

大学は国立の山形大学その他、山形県立保健医療大学、私立の東北芸術工科大学、東北公益文科大学等があります。このうち山形大学には今年相馬高校から11名が合格、東北芸術工科大学には3名が合格するなど、毎年多くの本校生が進学しています。

山形大学は以下の6つの学部を擁する総合大学ですが、学部によって所在地が違いますので注意が必要です。

- |          |   |     |
|----------|---|-----|
| 人文学部     | } | 山形市 |
| 地域教育文化学部 |   |     |
| 理学部      | } | 米沢市 |
| 医学部      |   |     |
| 工学部      |   |     |
| 農学部      |   |     |

山形大学に限らず、学部の所在地は受験前によく調べておく必要があります。今回の見学では人文学部・地域教育文化学部・理学部を見学させていただきます。

話が少し飛びますが、進学校の生徒は受験を経験することによって世界を一気に広がっていきます。世界とは地図上の世界だけではなく、この世に存在する、あるいは存在するかもしれない事物・現象の全て、感じる事ができるものの全てです。皆さんには、広く深く世界を知り、人間として成長してほしいと思います。好奇心とチャレンジ精神を持って世界を広げて下さい。

